

新着おすすめ本



2017.2-3



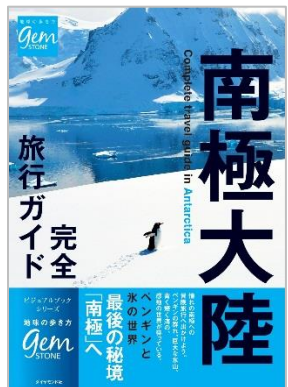
「なぜ日本の「ご飯」は美味しいのか： 韓国人による 日韓比較論」 [著] シンシアリー

本書は韓国人である著者が、日本を旅しながら、日本と韓国の違いを考察した日韓文化比較エッセイです。日本と韓国、どちらも「お米」を主食としているにも関わらず、味の違いはどこからくるのか？「老舗」に対するイメージの違い。桜に対する温度差。国民性の違いに驚かされるとともに、考えさせられる1冊です。



「外国人がムッとするヤバイしぐさ」 [著] ジャニカ・サウスウィック，晴山 陽一

その「しぐさ」相手を不快にさせています。例えば、鼻をすする行為。花粉症の時期にはよく見かける「しぐさ」ですが、人前でオナラをすることと同じくらい失礼な行為にとられます。文化や習慣の違いを理解していないと、予想外のトラブルを招いたり、不快な思いをさせてしまうかも。海外旅行に行く際に、一読しておくとも良いかもしれません。



「南極大陸 完全旅行ガイド」 [編] 地球の歩き方編集室

「地球の歩き方」から本格的な南極旅行ガイド本が出版されました。通常の旅行ガイド本と異なり、可愛いペンギンや美しい氷山の写真が多く掲載されているので、写真集としても楽しめます。もちろん、南極についての基本情報に加え、「南極への行き方」「旅行費用」「南極みやげ」に関する情報も満載です。



「フランス人がときめいた日本の美術館」 [著] ソフィー・リチャード

日本美術をこよなく愛するフランス人美術史家の著者が、10年かけて日本各地を旅し、選りすぐった「本当に訪ねる価値のある」美術館を紹介。美術館の情報だけでなく、展示されている作品の細やかな見所も紹介されているので、改めてその美術品や建築物の魅力に気づかされます。(英語版も所蔵あり)



「今宵は気軽に クラシックなんていかがですか?」 [著] 田中マコト

「クラシック」と聞くと、なんだか難しそうというイメージはありませんか。本書はバッハやベートーヴェン、ショパン等、各時代を代表する音楽家の驚きのエピソードに加え、代表作もCDやスマホ、Webからでも聞くことが出来るので、初心者だけでなく、音楽好きにもたまらないクラシック入門書です。是非、気軽に手にとってみてください。



「ももたろう:だれでも知っているあの有名な」 [著] 五味 太郎

タイトルにも書いてあるように、誰もが知っているあの有名な「ももたろう」の話です。ですが、この五味太郎版「ももたろう」は、一味違います。なぜなら鬼ヶ島のお供は、サルとイヌとキジだけではなく、持っていったのはキビダンゴだけではありませんでした。なんてかって？それは読んでからのお楽しみ。



《Ost trifft West》 [著] Yang Liu

中国で生まれ、ドイツで育った女性アーティストによる中国(東洋)とドイツ(西洋)の思想や文化の違いをイラストで表現したイラスト集です。言葉がない分、その違いが端的に表されています。比較対象が中国ですので、日本人の感覚とは若干異なる部分もあると思いますが、思わず「なるほど」と納得してしまう斬新なイラスト集です。